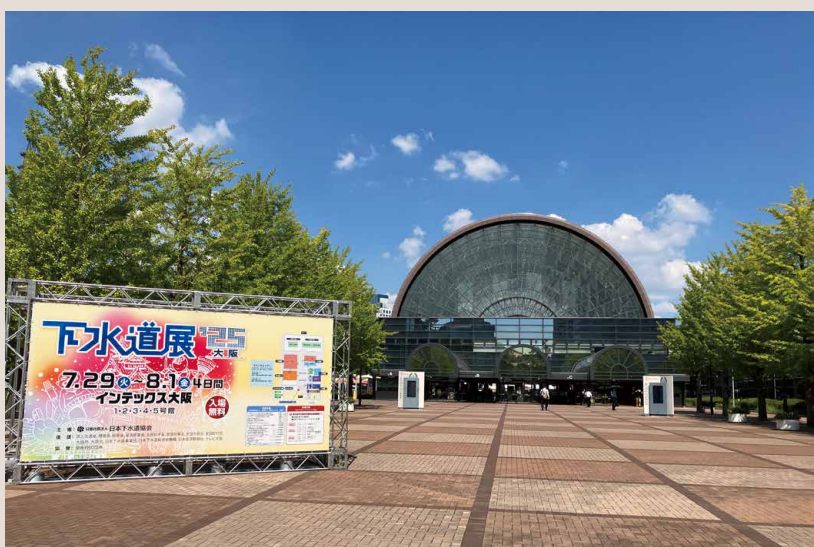


大久野通信 vol.23

下水道展 in 大阪に参加



JNC エンジニアリングは、公益社団法人 日本下水道協会主催の「下水道展’ 25」（7 月 29 日～ 8 月 1 日開催）に出展、大久野倶楽部メンバーも出展者として参加しました。主な目的は、独自の水浄化技術「自然浄化法リアクターシステム®」を知って頂くことにありましたが、冬に作ったバイオ炭についてもアピールを行ってきました。

INDEX

- ・展示会の裏事情
- ・バイオ炭の普及活動
- ・今後の展望

展示会の裏事情

展示会への出展は、JNC エンジニアリングとして初めての試みです。「自然浄化法リアクターシステム®」は 40 年以上前に提唱され、悪臭が少ないなどの優れた性能があるのですが、その理由が明確になっていませんでした。その解明を担っているのが大久野倶楽部のメンバーです。展示会の出展を決めてから約 1 年、調査や研究などを積み重ねて基本的なメカニズムは何とか出展できるレベルになりました。内容は、[ホームページ](#)でご覧いただけます。ただ、まだまだ粗削りで未解明部分もありますので、引き続き調査研究は継続していきます。



展示ブースの全体



ブース内の様子

バイオ炭の普及活動

緑色の植物は光合成で CO₂を吸収します。そのため緑地面積を広げることで地球温暖化に繋がりますが、それは植物が生きている間の話です。枯れてその一生を終えると分解されて土に還るのは他の生物と同様で、せっかく吸収したカーボンはその分解過程で放出されてしまいます。これを長期間保持する目的で注目されているのがバイオ炭です。枯れた植物を無酸素の状態で炭化することで、竹炭であれば 100 年後に 65%の炭素が残留します。こういった話、まだ一般的には余り知られていませんよね。大久野倶楽部では、伐採した竹を竹炭にする活動も行っており、日本バイオ炭普及会からバイオ炭としての品質証明も受けました。展示会では、バイオ炭を広く知って頂きたい思いが有り、「地球を救う園芸キット」を 100 セット準備して来場された方に配布しました。



地球を救う園芸キット（サンプル配布）



配布時に添えた説明文

今後の展望

程度の問題はありますが、湖沼には汚染原因を自浄する機能があり、その鍵を握るのが腐植物質です。「自然浄化法リアクターシステム®」は、これを応用した水浄化技術です。大久野倶楽部では竹炭に関する研究も行っているのですが、竹炭にも腐植物質と同様の働きがあることが判ってきました。また、所定の方法で作られた竹炭は「バイオ炭」に分類でき、地球温暖化を抑制する資材としての価値が有ることも判りました。それを一般の方々に広く知って欲しいと企画したのが、「地球を救う園芸キット」です。里山で生ずる資材に価値を見出したい、そんな思いで引続き社外の活動を続ける大久野倶楽部です。